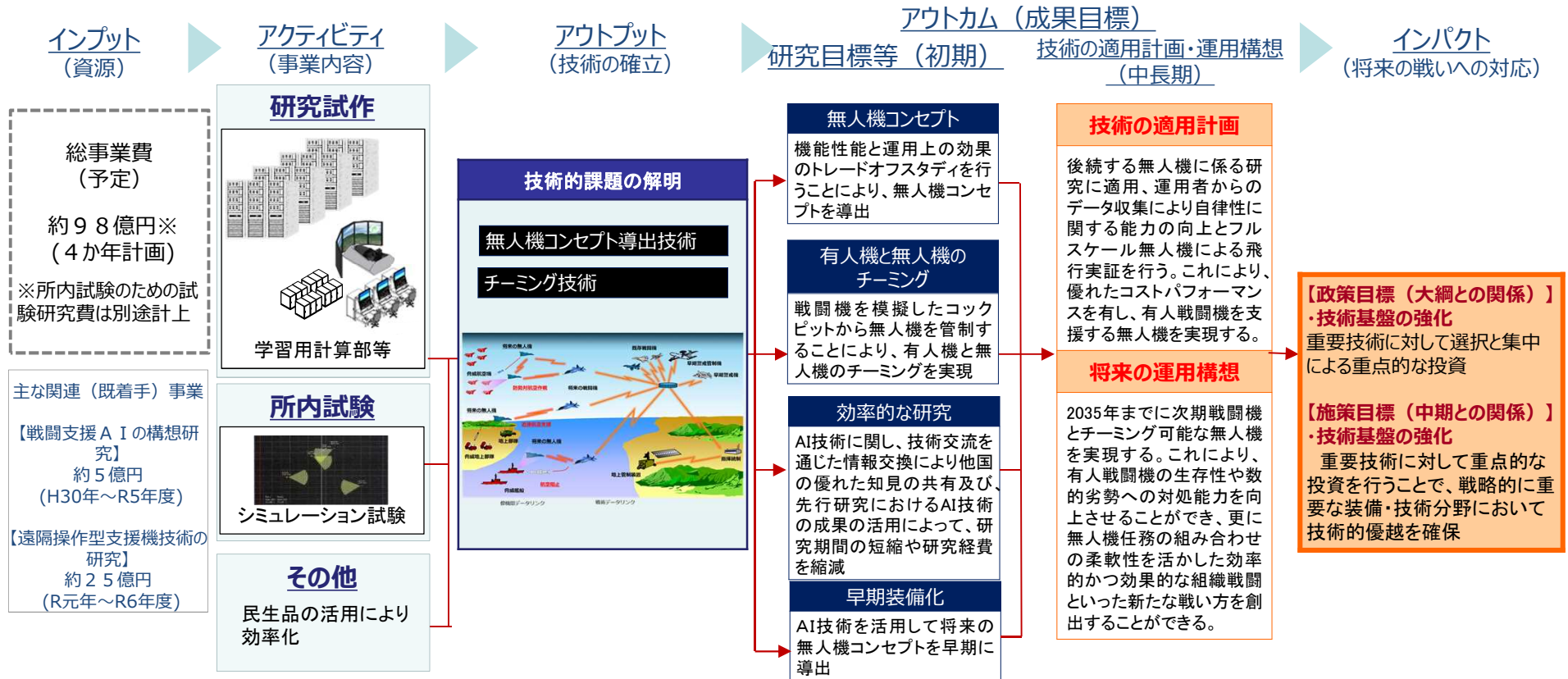


自律向上型戦闘支援無人機の機能性能及び運用上の効果に関する研究試作

自律性の高い無人機と有人戦闘機の連携を目指し、無人機の運用に関するシミュレーション等を行うことにより、将来の無人機に係る運用上の効果及び成立性を検討するとともに、戦闘機に随伴する無人機に必須なチーミング（連携）に関する技術を確認するものである。

現状・課題

諸外国において研究開発及び装備化が積極的に進められている無人機分野については、将来ゲームチェンジャーとなる可能性があり、特にAI技術を適用した自律性の高い無人機と有人戦闘機の連携は、我が国の航空優勢を将来にわたり確保する上で主要な要素である。我が国においては具体的な無人機の機能・性能や運用上の効果に関する検討・評価が十分になされていないため、そのような検討を深化させ、将来の無人機に係る運用上の効果及び成立性等を検討するための技術を確認する必要がある。



<研究開発実施線表>

年度	令和4年	5	6	7	8	9
実施内容		本事業 (研究試作)				
			所内試験			

総合評価

防衛省は、2035年頃までに次期戦闘機と連携する無人機の実現を目指している。当該無人機の実現の具体的な能力・性能については、技術的成立性、コスト、将来の脅威動向、運用構想等を踏まえて判断することとしており、その判断に資するものとなる本事業は、極めて重要である。

また、次期戦闘機と連携する無人機の実現を目指すことを踏まえれば、無人機コンセプト導出技術及びチーミング技術を技術的課題として取り組む本事業に着手することは妥当であると判断する。